学校番号	302

平成 31 年度　音楽科

教科	音楽	科目	声楽Ⅲ（独唱）	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	Joy of music（教育芸術社）						
副教材等	イタリア歌曲集１・コンコーネ 50 番（全音出版）・その他						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この授業では、イタリア歌曲集とコンコーネ５０番、ファイル、筆記用具、進度に合わせて使用する楽譜を各自持参してください。専門実技の力を伸ばすためには不断の努力が必要です。目標とする夢や進路を実現するための意識を高く持ち、指導された内容について復習を十分に行い、身についた技術を他の楽曲に応用してみましょう。楽曲に取り組む際、作られた背景や時代、詩の内容など曲によってことなる背景を十分に理解し創造的な表現につなげられるよう準備･工夫してレッスンに臨みましょう。進路実現のためにも基礎基本の声楽のテクニックの定着と応用を図ります。

普段の授業の成果を発表する場として、学内演奏会（ピッコロコンチェルティスタ）があります。試験の課題に加え、進度に合わせ本番で演奏する機会を積極的に持ちながら学んでいきましょう。

2　学習の到達目標

声楽に関する専門的な学習を通して、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして創造的に表現する能力を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	b:音楽表現の創意工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽の学習を行い、楽曲の表現内容を積極的に理解し表現意図を明確にして創造的に演奏活動を行おうとする。 演奏発表の場では演奏を共有し、互いに評価しあったりする活動に積極的に取り組もうとする。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの動きを感受しながら、楽譜の行間を読むことができ、表現内容の理解に基づいて演奏を工夫し、自らの表現意図を持って創造的に表現しようとする。	音楽理論、ソルフェージュなどの基礎的音楽能力を応用発展させ、楽譜に示された音楽を正しく再現することに加えて自らの創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技術を身につけている。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、価値を判断し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わい、他者の演奏を言葉によって的確に分析し、自己の演奏に結びつけて捉え改善することができる。
評価方法	授業態度（観察）	演奏聴取（実技試験）	演奏聴取（実技試験）	授業態度（観察）

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

月	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			関心・意欲・態度	創意・工夫	技能	鑑賞の能力		
4~8~	曲種に応じた表現内容を幅広く表現するための歌唱力伸長	コンコーネ No38～41 イタリア古典歌曲と日本歌曲、またはドイツ歌曲 Per pieta bell'idor mio Lungi Ma rendi pur contento Tristezza Sogno Rosa 他	○	○	○		a:マンツーマンの担当教員と共に、常に改善を図り、個別の進度に合わせ指導された内容が次のレッスン授業や、試験で改善され、指導された場所以外でも応用することができる。 b:楽曲の作られた時代や作曲されている曲のスタイルに相応しい奏法で表現を工夫し、表現意図を明確にして主体的に創造的表現ができる。 c: 音高、リズムなど楽譜に書かれたことを正しく読み取り、曲種や詩の内容に応じた発声や表現方法で歌い、表現意図を明確にして創造的に表現することができる。 d:発表の場で他者の演奏や自分の録画・録音物を聴き、音楽の要素ごとに分析し、よりよい表現のための方法を言葉によって表すことができ、感じ取ったことを応用して自分の演奏の創意工夫につなげることができる。	観察 演奏聴取
9~12	曲種に応じた表現内容の理解に基づく創造的な表現	コンコーネ No41～50 古典作品を中心とし、個別の進度に応じて、Donaudy 歌曲、Bellini 歌曲より他 アリアを含む楽曲,大学入試課題 Vaghissima sembianza Luoghi sereni e cari O del mio amato ben	○	○	○			観察 演奏聴取
1~3	曲の表現を可能とする声作りから音楽づくり	Alma grande Voi che sapete Convien partir 日本歌曲 他 ＊選曲については生徒の震度や実態、声の発達に合わせた相応しい楽曲を担当教員でそのつど決定する。	○	○	○	○		観察 演奏聴取